青山剛昌ふるさと館再整備検討会　次第

日時　令和５年２月１４日（火）
　　午後１時３０分～
場所　大栄農村環境改善センター
　　２階　大会議室

１　開　会

２　挨　拶　青山剛昌ふるさと館再整備検討会会長　蓑　豊

３　議　事
・基本計画（案）について

４　その他
◎今後のスケジュールについて
・３月中・・・パブリック・コメントの実施
・５月頃・・・第５回検討会（パブコメ結果報告、基本計画完成予定）

５　閉　会

青山剛昌ふるさと館再整備検討会委員名簿

氏　名	役　職　等	備　考
岩本　昌樹（いわもと　まさき）	由良宿自治会長会会長	自治会
吉川　加珠弥（よしかわ　かずや）	一般社団法人北栄町観光協会事務局長	観光協会
小椋　秀一（おぐら　しゅういち）	北栄町商工会事務長	商工団体
澤田　廉路（さわだ　としみち）	株式会社地域資源活用研究所代表取締役 元鳥取大学地域学部特命准教授（地域再生担当）	学識経験者
吉村　和真（よしむら　かずま）	京都精華大学専務理事	学識経験者
蓑　豊（みの　ゆたか）	兵庫県立美術館館長 金沢 21 世紀美術館特任館長	展示施設
清水　裕美子（しみず　ゆみこ）		公募委員
藤木　智美（ふじき　ともみ）		公募委員
井上　信一郎（いのうえ　しんいちろう）	北栄マンガ寺子屋倶楽部部長	その他町長が必要と認める者
濱口　国彦（はまぐち　くにひこ）	由良宿まちづくりの会理事	その他町長が必要と認める者
山岡　憲樹（やまおか　のりき）	特定非営利活動法人とっとり希望化計画２１ 理事長	その他町長が必要と認める者
佐古　菜々穂（さこ　ななほ）	地域おこし協力隊	その他町長が必要と認める者

≪オブザーバー≫

所　　属	役　職	氏　名
鳥取県まんが王国官房	官房長	岡山　佳文

≪事務局≫

所　　属	役　職	氏　名
北栄町	副町長	岡本　圭司
北栄町観光交流課	課　長	松本　裕実
北栄町観光交流課観光戦略室	室　長	前田　雅美
北栄町観光交流課観光戦略室	主　任	隅　淳子
北栄町観光交流課観光戦略室	主　任	岩垣　歩
北栄町観光交流課観光戦略室	主　事	竹歳美穂子
青山剛昌ふるさと館	館　長	河﨑　積
青山剛昌ふるさと館	主　任	遠藤　由美
青山剛昌ふるさと館	主　事	内間　凛

青山剛昌ふるさと館 再整備基本計画（案）

2023/2/14

目次

第１章　基本計画策定の背景と経緯 …… 3

１．　ふるさと館と北栄町の現状 …… 3
２．　基本計画策定までの経緯 …… 4

第２章　新ふるさと館のコンセプトと目的 …… 6

１．　新ふるさと館のコンセプト …… 6
２．　施設再整備の目的 …… 8
３．　施設名称の検討 …… 10

第３章　事業計画 …… 11

１．　収蔵計画 …… 11
２．　展示計画 …… 12
３．　飲食機能 …… 14
４．　ライブラリー機能 …… 14
５．　公園・広場機能 …… 15
６．　持続可能な地域連携と地域活性化 …… 15

第４章　施設計画 …… 16

１．　計画地概要 …… 16
２．　配置計画 …… 19
３．　必要な施設機能 …… 21
４．　諸室構成と動線 …… 23
５．　整備費用の検討 …… 24

第５章　運営手法 …… 25

１．　運営手法 …… 25
２．　来館者数の検討 …… 27
３．　運営費用の検討 …… 28

第６章　今後の展開 …… 30

１．　推進事業体の結成 …… 30
２．　今後のスケジュール …… 31

第１章　基本計画策定の背景と経緯

１. ふるさと館と北栄町の現状

日本を代表するマンガ家 青山剛昌先生（以下「青山先生」という）が北栄町出身であることから、本町では「名探偵コナンに会えるまち　北栄町」を謳い、キャラクターオブジェやモニュメント等を配置し修景整備を行うなど観光地づくりを進めている。その一方で、観光以外の場面においても、北栄町内で「名探偵コナン」を活用することで、地域住民への理解を得ながらまちづくりを推進してきた。

そのまちづくりの拠点となる施設が青山剛昌ふるさと館（以下「ふるさと館」という）であり、平成 19 年の開館以降、国内外から多くのファンや観光客が訪れ、令和元年の年間来館者は約 22 万人に達した。

今後は、本再整備計画によるふるさと館の満足度向上はもちろんのこと、町内の多様な魅力を体験し楽しめる機会を増やしていくことで、来町者に「魅力あふれる、また訪れたい町」だと感じてもらい、北栄町のファンを増やす仕組みづくりを目指していく。

町外からの評価を高めることは、北栄町に暮らし、働く地域住民にとって「町に対する誇りと愛着」を生み、町内の活性化にも繋がっていく重要な要素である。

以上のように、ふるさと館単独の魅力度向上に終わることなく、本再整備計画をきっかけとして、町内の活気づくりや経済の発展へ繋げていくことが重要である。

「名探偵コナンに会えるまち」という北栄町のまちづくりの拠点施設である、ふるさと館の存在とその魅力向上は、町内全体の活性化や経済に大きく寄与するものであり、ふるさと館と町とが互いに好影響を与えていくような持続的な取組が望まれる。

２．基本計画策定までの経緯

ふるさと館はもともと歴史文化学習館として平成７年２月１日に開館し、旧大栄町の歴史や農業に関する資料を中心に展示を行っていた。平成 11 年 12 月、本施設において「特別展 青山剛昌展」を開催。さらに平成 17 年 7～8 月に「大栄町・北条町合併記念日本海新聞発刊 30 周年記念 名探偵コナン展」を開催し大きな人気を博した。その成果を活かし、施設のリニューアルと展示内容の更なる充実を図って、平成 19 年３月 18 日に「青山剛昌ふるさと館」としてオープンした。

しかしながら、施設の狭隘性やバリアフリー化、貴重な所蔵品の収蔵・保管など、施設運営において課題が山積していることから、令和２年に青山剛昌ふるさと館あり方検討委員会は「青山剛昌ふるさと館のあり方に関する提言書」をとりまとめ、北栄町へ提出。それを受けて、北栄町は様々な観点から検討を重ね、令和４年に「青山剛昌ふるさと館再整備基本構想」を策定した。

その結果、ふるさと館は新たな敷地への移転新築が妥当であり、「出会いの広場（鳥取県東伯郡北栄町由良宿 1300 番地）」を建設候補地として再整備計画を進めていくこととなった。

その他、令和８年開通予定の「山陰自動車道大栄 IC」による交通網の変化を考慮したふるさと館へのアクセスルートの充分な検討や、再整備計画に対して地域住民への理解と協力が得られる推進体制の充実、幅広い事業手法の検討を行うこと等が求められた。

図 1 周辺マップ

【凡例】

：現ふるさと館が**専用駐車場として利用中**の敷地

：現ふるさと館が**繁忙期等に近隣駐車場として利用**している敷地

第２章　新ふるさと館のコンセプトと目的

１. 新ふるさと館のコンセプト

「名探偵コナンに会えるまち 北栄町」のシンボルとして、
地域住民はもちろんのこと、
北栄町を訪れるファンや観光客にも愛される持続可能な施設を目指すとともに、
マンガ・アニメ文化の発展と情報発信を担う場を創造する。

上記が「青山剛昌ふるさと館再整備基本構想」で策定された、新ふるさと館のコンセプトである。このコンセプトに基づき、新施設の基本方針や機能、施設の目的を検討していく。

（1） 新ふるさと館の機能「基本方針」

新施設の中核となる方針は「観光機能」であり、本町を代表する観光資産として、多岐にわたる経済波及効果や町内活性化の呼び水となることで、地域への還元を図る。また文化的な機能として、子どもたちの教育におけるマンガ活用や、各種ワークショップや研修会などの活動を行っていく。

更に新施設の計画地全体を「誰でも利用出来る公園・広場機能」として整備し、町民にも日常利用される憩いの場となることで、地域に愛される持続可能な存在となることを目指す。

図 2 施設機能の基本方針イメージ

（2） 新ふるさと館の機能「具体的な構成要素」

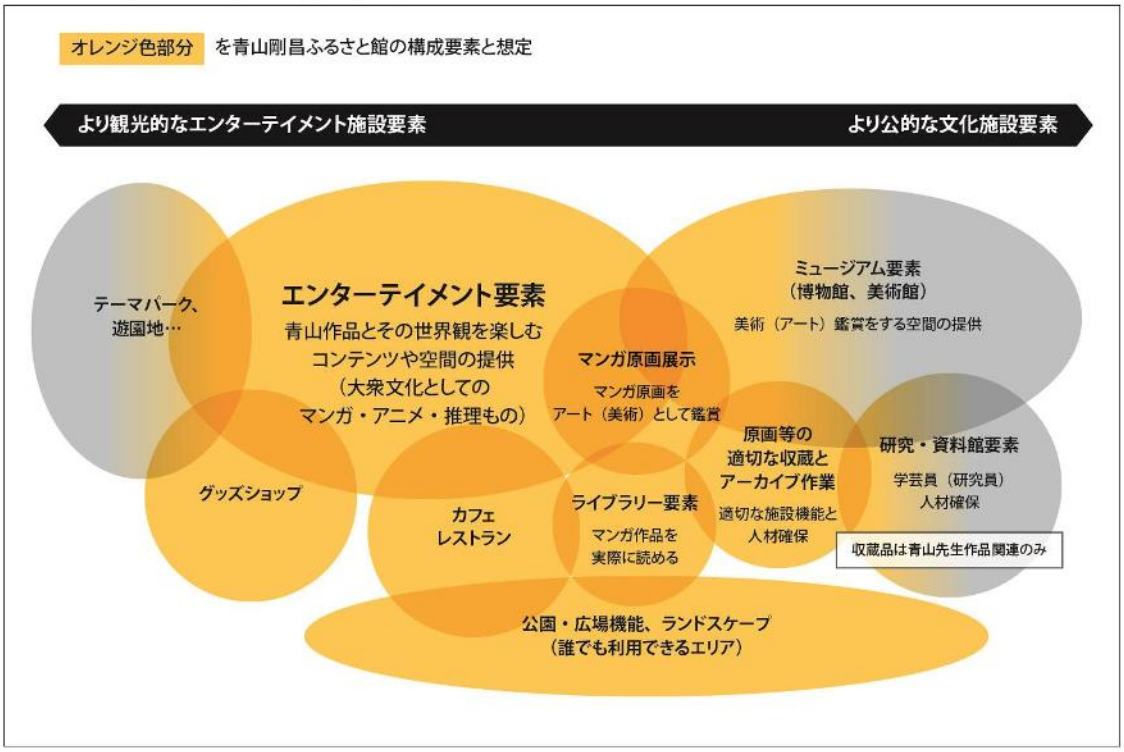
青山作品とその世界観に親しみ、楽しめるエンターテイメント要素を中核としつつ、その他の機能も備えることで多様な利用ができる新施設を検討する。

青山作品のマンガ原画展示の他、マンガ原画収蔵とアーカイブ作業、マンガ文化の研究や継承といった文化施設要素についても、不足無く適切に行えるような環境を整える。

青山作品とその世界観を楽しむエンターテイメント要素に付随し、グッズショップの他、青山作品を実際に手に取って読むことができるライブラリー機能も検討する。また地域住民が日常利用できる場所として、カフェ・レストラン機能の可能性についても検討する。

そして新施設を憩いの場として幅広い人に愛されるものにするため、誰もが利用出来る公園・広場機能も、新施設を特徴づける重要な要素として検討したい。

図 3 施設機能の具体的な構成要素イメージ



2．施設再整備の目的

以下４つのポイントを達成することを、ふるさと館再整備の目的とする。

ポイント①	ポイント②	ポイント③	ポイント④
ふるさと館来館者の満足度 UP	青山作品とマンガ文化の発展と情報発信	地域住民が日常利用できる機能と場所の提供	町内消費の拡大

（1） ふるさと館来館者の満足度アップ

施設設備面では施設自体の狭隘性を前提に「企画展やイベントなど各種スペースの不足、バリアフリー設備の不足、収蔵設備の不足」、運営面では「インバウンド対応の不足、専門人材の不足、周辺施設との連携の不足」など、現状のふるさと館に不足している各種機能を取り入れ、多様化するニーズに対応することで来館者の満足度アップを図る。

さらに、名探偵コナンの世界観のひとつである謎解き要素なども取り入れた魅力的な展示内容や企画、空間を検討し提供する。

また、来館者が町の産品や歴史、文化などさまざまな魅力に触れられるコーナーや、町内各地で唯一無二の体験を提供するなど「地域内観光」の場所をつくることで、「北栄町のファン」を増やしていく。

（2） 青山作品とマンガ文化の発展と情報発信

青山先生の原画などの貴重な収蔵品を、温湿度や照度が適切に管理された収蔵スペースに収蔵・保管する。

そして適切に保存された収蔵品を活用した、青山作品とマンガ文化の魅力を広く伝える展示や企画を検討する。

また、青山作品に限らずマンガ・アニメ文化全体の価値向上と、マンガ・アニメを未来への財産とするための研究や普及活動のあり方も模索する。

（3） 地域住民が日常利用できる機能と場所の提供

地域の様々なイベントに利用できる多目的スペースや公園・広場機能を設ける。

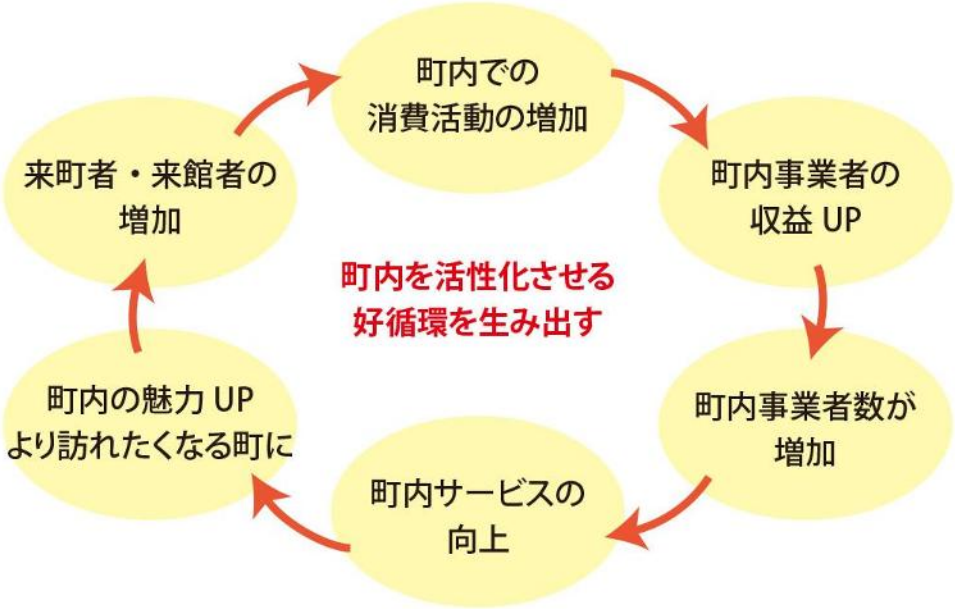
また、観光客だけでなく地域住民も日常的に利用できる場所として、カフェ・レストラン機能の可能性を検討する。

以上のように、新施設が地域住民にとって日常的な存在となることで愛着を持ち、施設運営に積極的な参画をしてもらう仕組みづくりを検討する。

（4） 町内消費の拡大

ふるさと館再整備を起点として、町内事業者の増加や地域の活気が生み出されていく持続可能な好循環を目指す。

図 4 ふるさと館再整備による持続可能なサイクルイメージ



３．施設名称の検討

（1） 現施設名称の検討

本再整備計画にあたり、「青山剛昌ふるさと館」という現施設名称について、新施設にも適するものであるか改めて検討した。

この「青山剛昌ふるさと館」は、青山先生や青山先生が描いた作品の世界観を体感し、青山先生のマンガ家としての生き方を紹介する施設として、コンセプト決定時においても整理している。そして、現施設名称「青山剛昌ふるさと館」には、「青山先生のふるさとである」という唯一無二の意味合いが込められており、これは北栄町以外の場所では名付けることができない、町と施設にとってかけがえのないトレードマークである。

現施設名称は平成 19 年の開館以来 15 年の長きに渡り使われ続けており、地域住民やファンにとって「青山剛昌ふるさと館」という名称の認知度は高く、町内外において強い愛着が生まれていると考えられる。また、「青山剛昌ふるさと館」という名称は「コナン館」という呼び名で認知されている。

以上を考慮した結果、「名探偵コナンに会えるまち　北栄町」というキャッチフレーズとともに、北栄町をアピールできる現施設名称「青山剛昌ふるさと館」を引き続き、再整備後の新施設名称として使用していくものとする。

ただし、施設の外国語表記や施設ロゴデザインについては、海外戦略も視野に入れた新施設のプロモーション計画や施設計画、展示計画などとも連動するため、今後の段階で改めて検討していくものとする。

（2） 計画地名称の検討

現在、本計画地は「出会いの広場」と呼称されており、新施設整備後においても新施設と併せて認知されていくことが想定される。今後、様々な場面での周知が必要となることから、再整備への期待を高める意味でも、公募等を含めて検討を進める。

第３章　事業計画

１．収蔵計画

既存収蔵品は、青山作品のマンガ原画の他、作品関連グッズがある。

収蔵品については今後も、「青山先生のふるさと」という施設方針に則って、青山先生と青山作品に関連するものを収蔵・保管していく。

これらの収蔵品を長期間に渡り適切な環境下で保存するため、温湿度や照度の管理ができる設備を整える。

また、収蔵した貴重な原画などの関連資料をデータベース化・アーカイブ化し、収蔵品の多様な活用を可能にする仕組みづくりに取り組んでいく。しかしながら、既存の収蔵品だけでも相当な物量がある関連グッズをどのようにコレクションとして取り扱い、保管していくかは、今後のアーカイブ化の取り組みの中で引き続き検討していく。

これらをふまえ、収蔵スペースについては、現施設に不足していた既存収蔵品の保管スペース確保に加え、今後新たに収蔵される原画や各種資料などの保管も想定した充分なスペースを設ける。同時に、貴重な原画などの関連資料を安全に保管するため、収蔵スペースは地震や水害、火事などの防災対策も検討する。

２. 展示計画

青山作品のファンが楽しめる展示内容であることはもちろんのこと、地域住民にとっても新たな発見と親しみが持てる展示を検討する。

屋内の常設展示エリア充実の他、屋外や施設サインなどにも青山作品にちなんだモチーフをちりばめることで、計画地内を探検するような楽しみ方や、日常生活と作品の世界観が混じり合う体験ができるような場所とする。

（1） 常設展示

青山先生の来歴や人となりを知ることが出来る展示の他、青山先生の直筆原画展示、青山作品紹介、青山作品の世界観に触れることができる展示など、さまざまな観点や手法によって来館者を飽きさせない展示内容を検討する。

青山先生による直筆の原画は、ふるさと館でしか見られない貴重な収蔵品の最たるものとして、適切な温湿度や照度管理のもと展示する。

また、長期間の展示による原画の劣化を防ぐため、常設展示エリア内においても「定期的な原画入替」を必須条件として検討する。

常設展示エリア内ではさまざまな角度から世界観に親しめるよう、AR などのデジタル技術を活用した体験型コンテンツを取り入れることも検討する。

（2） 企画展示

青山作品に関連した企画展示以外にも、青山先生に関係のあるマンガや作家、地域に関連するものなどさまざまな展示を企画することで、変化があり何度来ても楽しめる施設運営を行う。

企画展示が行われない時期もあることを想定し、企画展示専用の諸室を設けるのではなく、多目的スペースなど幅広い用途に耐えうるスペースでの開催とすることも検討する。

（3） 屋外などの展示

誰でも利用できる屋外エリアにも青山作品に関連したモチーフやオブジェを点在させ、計画地内を探検するような楽しみ方や、日常生活と作品の世界観が混じり合う体験ができるような場所とする。

トイレなどの施設サインや各所看板も、青山作品にちなんだモチーフを取り入れることで、見ているだけ、歩いているだけで楽しいという空気感を生み出すよう検討する。

図 5 展示構成内容のイメージ

３．飲食機能

カフェ・レストランといった飲食店は住民の豊かな日常生活に欠かせない存在であるが、町内に飲食店数が少ない現状がある。そのため、本計画が町内の飲食店不足解決の一翼を担うことが期待される。

本計画ではコラボメニューを提供する飲食機能の検討はもちろんだが、都心に比べて好アクセスとは言いがたい立地と、閑散期などで不安定になりがちな観光客収入に依存しすぎない「地域住民に底支えされた運営計画」の必要性から、地域住民が利用しやすいように「日常的なメニュー提供」を主とする飲食店舗を検討することも必要である。

また、展示施設内の飲食店は観光客の利用動線が主となり、日常的に飲食店のみを利用したい地域住民の足が遠のくことが考えられるため、店舗の場所は「展示施設と独立した建物」もしくは、展示施設に併設される場合であっても「展示施設の出入口とは異なる、飲食店が単独で利用できる出入口動線」を設けることが望ましい。

この「飲食店が単独で利用できる出入口動線」は、飲食店が展示施設と切り分けられたテナントによる運営となる場合など、様々な運営形態にも対応しやすい利点があるため、今後の必須条件として検討する。

４．ライブラリー機能

ライブラリー機能は、書籍を閲覧するという行為からある程度の時間を要すことが想定されるため、行動時間に制限がある観光客の利用は限られ、実際の主な利用者は地域住民であろうと考えられる。

そのため、地域住民が日常利用しやすいライブラリー機能のあり方を検討する必要がある。

まず JR 由良駅から本計画地に至るまでには北栄町図書館があり、館内では郷土を紹介するエリアとして「名探偵コナンコーナー」が設けられている。このことから、新施設でライブラリー機能単独のスペースを確保することは必須事項ではないと考えられる。

しかし、新施設内の展示で青山先生や青山作品への知識・関心を持った後、すぐに関連書籍を手に取って楽しめるという体験も重要であるため、ライブラリー機能は単独スペースを確保するのでは無く、カフェや共用通路、エントランスホールなどの「その他の機能とスペースを併用する」方針で検討する。

また、地域住民に有料の常設展示エリアへ何度も足を運んでもらうことは現実的では無いため、ライブラリー機能を単独利用できる動線を検討する必要がある。

これはライブラリー機能を「その他の機能とスペースを併用する」ことで、ライブラリーや休憩を目的とした地域住民による「ついでの飲食利用」の他、これが施設内に足を踏み入れるきっかけとなり、常設展示・企画施設などへの興味・関心を持つ機会となることも狙う。

5．公園・広場機能

公園・広場機能とは、子どもたちの遊び場であり、人が集まる場所であり、憩いの場であり、まちの象徴にもなる重要な存在である。

本計画地は約 24,166 ㎡もの面積があり、基本構想で策定された「新施設の延床面積想定 約 3,000 ㎡」を確保しても、なお多くの敷地が残される。本計画では計画地全体をフル活用し、訪れる人の日常的な憩いの場として親しみが持てるような公園・広場機能を検討していきたい。

そのためには、公園・広場機能のエリアは無料エリアとし、誰もが気軽に足を踏み入れやすい開放的な外構デザインを検討する。

また、本計画地に隣接する既存の桜並木や、大山が見える川沿いの景観など、地域と敷地のポテンシャルを最大限活かした屋外空間のデザインについても検討する。

さらに、子どもたちの遊び場や憩いの場としての活用の他、キッチンカーの出店や地元の農産物・手工芸品などの直接販売イベント、地域のお祭りや縁日など、自由度の高い場所として幅広い活用を検討することで、地域全体の活気づくりや魅力的なまちづくりに寄与する。

6．持続可能な地域連携と地域活性化

ふるさと館再整備を起点として、地域内観光推進による雇用増加や町内事業者の増加、地域住民の地域への愛着の増加によって地域の活気が生み出されていく、持続可能な地域の好循環づくりを目指す。

新ふるさと館が持続可能な施設となるためには、新ふるさと館を目的に来町した人が、町の魅力と出会い、その魅力を体感することで「北栄町のファン」となり、また新たなファンを獲得していく仕組みづくりが必要である。

そのためにも、運営の創意工夫と地域との対話・連携により、効率的・継続的に青山先生の作品の世界観や地域の魅力を十分に伝えていくことが重要である。

第４章　施設計画

１．計画地概要

（1） 計画敷地の概要

計画地	出会いの広場（鳥取県東伯郡北栄町由良宿 1300 番地）
敷地面積	24,166.08 ㎡（建ぺい率 70%、容積率 400%） ※既存「コナンの家 米花商店街」の 1434.75 ㎡は含まない。
用途地域	都市計画区域外 用途地域無し
道路斜線勾配	1.5
隣地斜線	31m+2.5 勾配　北側斜線無し 日影規制無し
接道道路	東側 県道：由良停車場線（幅員 4.5＋8.5＋4.5m） 東側 町道：自動車運転免許試験場線（幅員 6m）

（2） 周辺エリアとの関係

●交通アクセス

北栄町は鳥取県の中部に位置する日本海沿いの町である。

JR 由良駅（コナン駅）から現ふるさと館までは、徒歩 20 分程度、約 1.4km の道のり。

JR 由良駅（コナン駅）から新ふるさと館計画地までは、徒歩 10 分程度、約 650m の道のりで、駅から現ふるさと館の中間地点に位置する。

駅から現ふるさと館までの道のりは「コナン通り」と名付けられ、名探偵コナン登場キャラクターのオブジェやモニュメントが設置されており、青山作品に触れられるよう整備を進めているが、食べ歩きを楽しませる観光客向けの賑わった通りではなく、特に由良川を越えた先は畑地の景色が主となっている。

駅の南側には、鳥取県立鳥取中央育英高校、北栄町立大栄中学校、北栄町立大栄小学校があり、学生・児童など、地域住民の利用が多い。

「山陰自動車道大栄 IC」が開通（令和 8 年予定）すると、これまで以上に交通の利便性が良くなることが想定される。

●周辺観光地

JR 由良駅から由良川までのエリアでは、かつて船が行き交い江戸時代に「由良宿」として賑わった宿場町の痕跡を、由良藩倉跡などから辿ることができる。

また、幕末に鳥取藩で最初に築造され、大砲の台場として使われた由良台場跡、国内有数の溶鉱炉であった六尾反射炉跡など、全国的にも価値の高い史跡が残されている。

国道 9 号線沿いにある道の駅大栄は、道の駅登録第 1 号という歴史を持つだけでなく、地元生産者が丹精込めて作った新鮮な野菜や果物が並ぶ「お台場いちば」が併設されており、近隣住民や鳥取県を訪れた旅行者の寄り所となっている。

同じく国道 9 号線沿いの日本海に繋がる砂丘海岸に面した場所には北条オートキャンプ場があり、松林の中でキャンプが楽しめる。また、現在道の駅北条公園は、令和 7 年度リニューアルオープン予定として、新たな地域振興の拠点となるべく再整備が進められている。

国の重要伝統的建造物群保存地区「白壁土蔵群」や令和 6 年度完成予定の「鳥取県立美術館」のある倉吉市は自動車で 15 分程度、山陰屈指の名湯「はわい・東郷温泉」「三朝温泉」は自動車で 30 分程度、県内でも誘客数の多い「鳥取砂丘」や境港の「水木しげる記念館」は 60 分程度の場所にある。

（3） 防災計画

北栄町防災ハザードマップによると、本計画地は、河川洪水時や津波による浸水や、土砂災害の懸念は無い区域となっている。

また、近隣には指定避難所として大栄体育館、中央公民館大栄分館、大栄農村環境改善センターなどが指定されており、これは避難した住民を災害の危険性がなくなるまで滞在する、または災害により家に戻れなくなった住民が一時的に生活する施設である。

本計画地である「出会いの広場」は、指定緊急避難所に指定されており、これは災害による危険が切迫した状況において、住民が緊急に避難する場所とされている。

そのため、新施設の建築設備は水害・地震などの災害に耐えうるものとし、緊急時安全に避難ができるような土地の整備と、車椅子の方や障がいのある方にも配慮した避難動線の確保を検討することが必要である。

屋内・屋外どちらも緊急避難時に使用できるよう、広場（屋外）と多目的ホール（屋内）をそれぞれ適切な面積が確保するよう検討する。

また、本施設の備蓄程度としては、来館者や施設内で働くスタッフに向けた緊急避難用程度とし、被災した住民が一時的に生活できる程の備蓄をする必要はないと考えられる。

図 6 （参考）北栄町防災ハザードマップ

２．配置計画

（1） 敷地配置計画

隣接することで、既存の「コナンの家 米花商店街（名探偵コナン関連の飲食店とグッズショップ）」と機能が重ならないよう、新施設は計画地内の奥側に引き込み、その途中を散策させることで計画地内全体での賑わいを生み出すよう検討する。

計画地内の散策をする際、心地よく自然に触れられるよう、四季折々の植栽整備を検討することで、写真映えする景観づくりによる SNS での話題喚起のほか、地域住民の日常的な憩いの場の創出を図る。

また、ふるさと館を訪れた観光客・計画地へ散歩に訪れた地域住民など、誰もが利用しやすい位置に、公衆トイレの設置を検討する。

さらに、新施設の屋上やカフェ・レストラン、広場などを活用して、由良川や既存の桜並木、大山を眺望できるようにするなど、地域が誇る景観を活かせるよう検討する。

（2） 交通アクセスルートと駐車場利用動線の整理

計画地内に整備される駐車場は、計画地内の飲食店や公園・広場機能のみ利用をする人、コナン通りなど町内各所を観光する人など、ふるさと館来館者以外にも多様な目的での駐車利用があると考えられ、自動車の出入りが煩雑になると想定される。

また、「山陰自動車道大栄 IC 開通（令和 8 年予定）」により交通量が増加し、コナン通り（県道 由良停車場線）では、交通渋滞が発生することが考えられる。

そのため、既存公衆トイレを移設するなどの対策により、自動車動線用の更なる間口確保をすることで、自動車出入りの煩雑さ解消と交通渋滞解消の検討をする必要がある。

この既存公衆トイレは、前述の「誰もが利用しやすい位置」へ移設することによって、計画地を訪れた人の満足度向上にも寄与することができる。

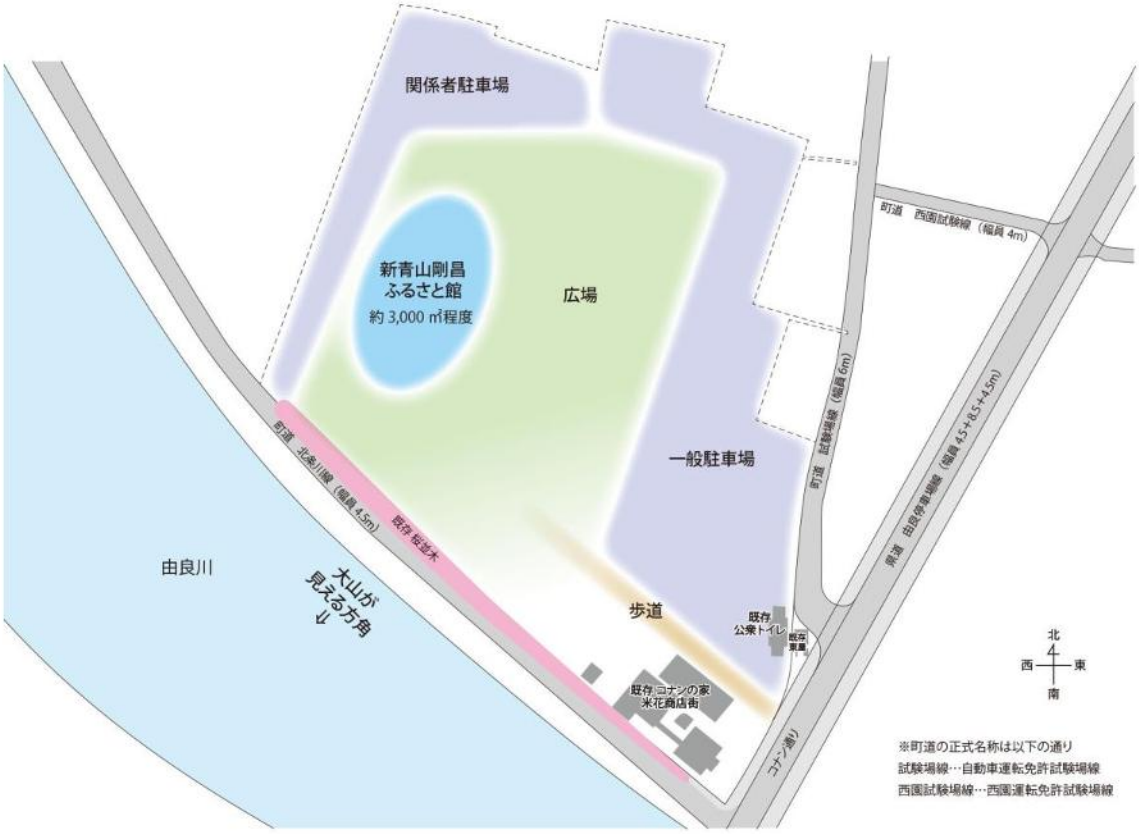
また自動車動線用の充分な間口確保によって、よりわかりやすい歩車分離が可能となり、歩行者の安全性も向上する。

以上のことから、一般駐車場は公園・広場機能の確保に影響が出ない程度の面積を、県道・町道からの自動車動線を鑑みて計画地内の北東側へ配置し、隣接する住宅地と新施設との距離も確保する。

関係者駐車場は北西側に配置し、新施設と隣接させることで、荷物の受け渡しを容易にするほか、スタッフ動線と一般客動線の分離を可能とする。

駐車場面積に関しては、近隣の現ふるさと館駐車場や北栄町役場駐車場なども適宜利用・連携することによって、繁忙期の混雑にも柔軟に対応できるよう検討する。

図 7 敷地配置案



３．必要な施設機能

施設の主要素である展示エリアは、来館者の安全を確保できる十分なスペースの確保が必須であり、収蔵庫についても収蔵物の適切な保存・管理を行える十分な広さや環境が必要である。ただし、アーカイブ作業を展示として見せる開架収蔵スペース機能については、「大量のアナログ原画が持ち込まれることは想定されない」という本施設の収蔵品の特徴をふまえて不要とした。また、企画展示、シアター機能、学習講座、ワークショップなどは常時開催されるものではないため、用途に応じた活用が可能な空間として「多目的ホール（イベントスペース）」に機能を統合し、自由に活用できる空間づくりを目指していく。

共有エリアについては、現施設の課題であるエレベーターや手すり、スロープ、音声ガイド、ピクトグラム表示などのバリアフリー機能やユニバーサルデザインの充実を図ることで、全ての来館者が快適に利用できる施設づくりに取り組む。

あわせて、事務室や会議室、職員休憩室、救護室といった施設の運営や維持管理に必要な機能についても整備する。その中で、災害時を想定した備蓄倉庫機能については、前述（P.17 参照）にある通り、本計画地は「指定避難所」では無く、近隣施設に備蓄倉庫が整備されているため、不要とした。

今後は引き続き各種機能の優先順位を明確にした上で、適宜スペースの併用や機能の統合、再生可能エネルギーや ZEB（Net Zero Energy Building）等の積極的な活用を視野に入れながら、延べ床面積 3,000 ㎡程度（現施設：約 891 ㎡）に収まる施設となるよう充分な検討を進めていくものとする。

表 1 施設の主な機能・設備と想定床面積

主な施設	機能	想定面積
●展示エリア		
・常設展示室	青山先生関連の展示、青山作品の原画展示、青山作品の世界観に触れる展示、体験型アトラクションなど	500 ㎡
●収蔵エリア		
・収蔵庫/収蔵庫前室/燻蒸室	長期間に渡り収蔵可能な面積の確保、適切な湿温度・照度管理機能を備え、企画展等で借用した作品の一時保管等にも使用	500 ㎡
●コミュニケーションエリア		
・多目的ホール(イベントスペース)	各種企画展示の開催、シアター機能、各種学習講座やワークショップ、イベントなど様々な目的で活用可能なスペース	1100 ㎡
・フリースペース	フリースペースや屋外等で利用できる食物販コナーも併設	
・キッズルーム	幼児(未就学児)対象のキッズコーナー、キッズトイレ	
・ベビールーム	授乳室、おむつ交換など乳児専用スペース	
・飲食店舗(カフェ)	全ての来館者が気軽に休憩・食事ができるスペース	
・物販店舗(グッズショップ)	青山作品のグッズ販売、企画展等の限定販売	
●共有・管理事務所エリア		
・エントランスホール/トイレ	受付機能、誰もが無料で自由に利用できるフリースペース、無料ライブラリー機能、町内PRコーナー、トイレ(男女・多目的トイレ)	900 ㎡
・事務室/応接室/会議室	職員更衣室、ロッカー、職員休憩室	
・救護室	体調不良者やけが人への対応スペース	
・倉庫	運営備品等	
・階段/エレベーター/廊下/その他	バリアフリー対応のエレベーター、廊下などのスペースを活用した展示	
合計		**3000 ㎡**

●屋外エリア	
・屋外広場	無料で利用できる来館者と地域住民の憩いの場、各種イベントの開催、屋外トイレの完備、緊急避難場所としても活用
・駐車場	小型車、大型車、ハートフル駐車場、大型バス、バイク、自転車の駐車スペース

４. 諸室構成と動線

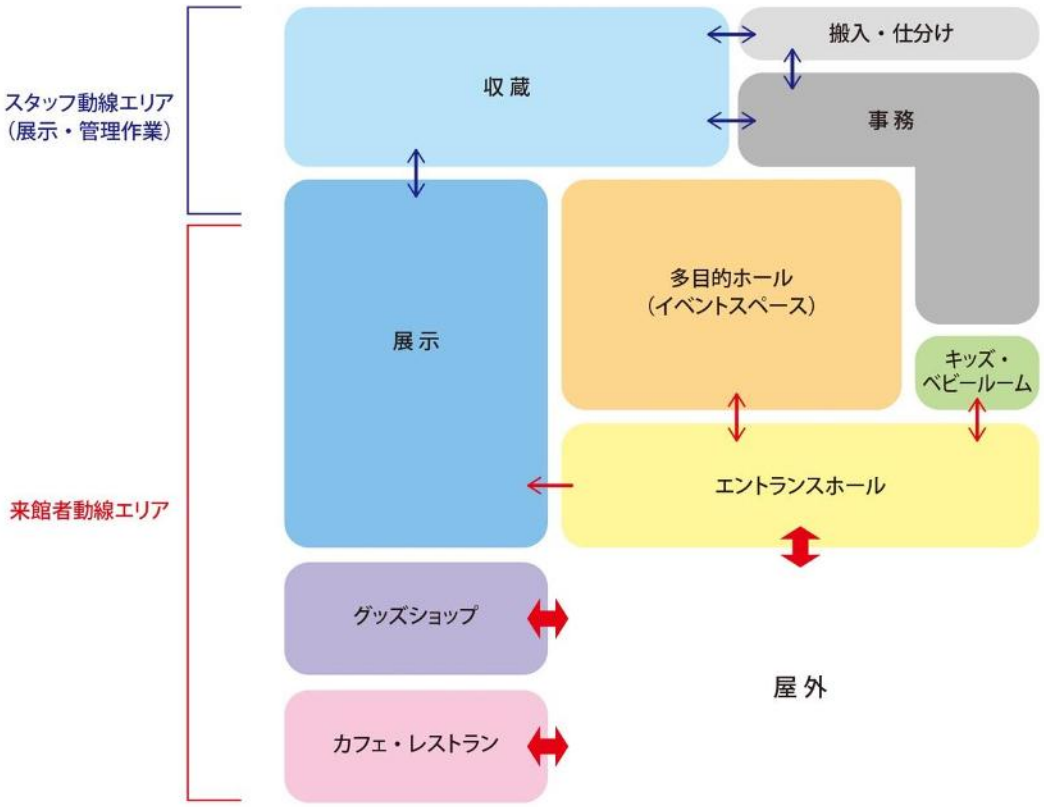
搬入・仕分け、収蔵、事務エリアといったバックヤード機能を付近にまとめることで、スタッフ動線と来館者動線の区分けを可能にする他、不要な移動を減らすことによる収蔵品の保全などスムーズな展示・管理作業にも寄与する。

エントランスホールを来館者動線の「ハブスペース」とし、来館者が各エリアへアクセスする際の中継地点として、拠点となる空間とする。

グッズショップとカフェ・レストランについては、テナント運営により展示施設とは異なる運用が行われることが考えられるため、エントランスホールを介さない独立した出入口動線を確保する。

特にカフェ・レストランについては前述（P. 14 参照）の通り、展示施設とは独立している出入口動線の確保が必須である。

図 8 諸室構成イメージ



5．整備費用の検討

温室効果ガス排出量削減（カーボンニュートラル）などといった SDGs の達成や、世界的な流通コスト上昇といった社会情勢などの様々な要素を考慮し、建物の建築構造を検討する。

なお、本書に記載している建築構造と整備費用の想定は、あくまで基本計画段階のイメージであるため、次年度以降の設計段階において改めて検討・確定する。

表 2 整備費用の試算

項目	試算額
①外構工事費	約 4.0 億円
②建築工事費（鉄筋コンクリート造）	約 18.6 億円
③展示工事費・装飾工事費	約 5.5 億円
合計	約 28.1 億円

第 5 章　運営手法

1. 運営手法

運営手法の方針を決めるにあたり、さまざまな運営手法について本計画におけるメリット・デメリットを整理し検討した。

町直営のメリットは、主に町の方針が直接運営に反映でき、事業の安定性、継続性を担保しやすいことである。また、現ふるさと館の運営実績・監修実績があり、版権管理・監修のスムーズな進行が可能である。今年度実施したサウンディング調査でも、「主たる運営方式は町直営が望ましい」という意見が多数であった。デメリットは、サービスの実行においてスピード感に欠けることなどが挙げられる。

指定管理方式のメリットは、民間手法を用いた事業の展開とサービスの質向上や、民間による人材の確保・育成などが挙げられる。デメリットは、一度指定管理方式を採用すると、再度町直営を選択することが困難であること、指定管理者のノウハウの有無により、監修側とのスムーズな調整が行えない場合があることなどが挙げられる。

リース方式のメリットは、民間による建設費などの資金調達などが挙げられる。デメリットは、事業者の選定・公募の準備に時間と費用を要してしまうことなどが挙げられる。

PFI 方式のメリットは、民間手法を用いた事業の展開とサービスの質向上や、国の補助金の活用が可能であることなどが挙げられる。デメリットは、事業者の選定・公募の準備に時間と費用を要してしまうこと、事業者のノウハウの有無により、監修側とのスムーズな調整が行えない場合があることなどが挙げられる。

以上のことを踏まえ総合的に検討した結果、本計画では事業の安定性、継続性の担保や、版権管理・監修のスムーズな進行が可能であることが最重要事項であると考えられるため、新ふるさと館の運営手法は「町直営」を基本とし、指定管理方式についても引き続き検討することとする。

ただし、町直営については、専門的なスキルや知見が必要とされる業務に関し、適宜「一部を業務委託もしくは指定管理」とできるよう検討する。

そしていずれの運営方式となっても、地域住民や事業者などから広く意見を取り入れ、常に改善していけるような、柔軟なフィードバックを可能にする仕組みづくりも望まれる。

また、グッズショップやカフェ・レストランについては、事業の特性上、サービスや運営に関して常にスピード感ある実行ができることが重要であるため、町直営に限らない「テナント運営」を基本方針として検討する。

表 3 運営手法の整理

事業手法		資金調達	建設/設計	運営/維持管理	施設の所有		メリット	デメリット
					運営中	事業終了後		
町直営方式		公共	公共	公共	公共	公共	・**町の方針が直接運営に反映できる** ・役場内部や他の公共施設、施策と連携が図りやすい ・運営実績、監修実績がある ・事業の安定性、継続性を担保しやすい	・サービスの質の確保の限界（ノウハウが限られる） ・人材の確保育成 ・コスト意識の低下 ・行政特有の規則等による柔軟性の確保 ・スピード感に欠けたサービスの実行
指定管理方式		公共	公共	民間	公共	公共	・**民間手法を用いた事業の展開とサービスの質の向上** ・民間手法による事業の効率化 ・運営費等のコスト削減 ・民間による人材の確保、育成	・町直営と比較して、町の意向が反映しにくい。 ・監修サイドとの調整不安 ・町直営と比較してサービスが劣る可能性あり ・再度直営を選択することが困難
リース方式		民間	民間	公共/民間	民間	公共/民間	・**建設費等を民間が資金調達** ・延べ払いにより財政負担の平準化が可能	・事業者の選定・公募の準備に時間と費用を要する ・国や県の補助金の活用が不可
PFI方式	DBO法式	公共	民間	民間	公共	公共	・**民間手法を用いた事業の展開とサービスの質の向上** ・民間手法による事業の効率化 ・運営費等のコスト削減 ・民間による人材の確保、育成 ・国の補助金の活用可能	・町直営と比較して、町の意向が反映しにくい。 ・監修サイドとの調整不安 ・町直営と比較してサービスが劣る可能性あり ・事業者の選定・公募の準備に時間と費用を要する
	BTO方式	民間	民間	民間	公共	公共	・**民間手法を用いた事業の展開とサービスの質の向上** ・民間手法による事業の効率化 ・運営費等のコスト削減 ・民間による人材の確保、育成 ・民間による資金調達 ・国の補助金の活用可能	・町直営と比較して、町の意向が反映しにくい。 ・監修サイドとの調整不安 ・町直営と比較してサービスが劣る可能性あり ・事業者の選定・公募の準備に時間と費用を要する
	BOT方式	民間	民間	民間	民間	公共		
	BOO方式	民間	民間	民間	民間	民間 （解体・撤去）		

2．来館者数の検討

（1） 来館者数実績について

ふるさと館再整備計画にあたり、現ふるさと館の直近 5 年間における来館者数の実績を整理した。

表 4 現ふるさと館の来館者数実績

年度	年間総来館者数	一日あたりの平均来館者数
平成 29 年度（365 日営業）	127,544 人	349.44 人／日
平成 30 年度（365 日営業）	161,309 人	441.94 人／日
令和元年度（366 日営業） ※うるう年の 2020 年 2 月 29 日分を含む	219,811 人	600.58 人／日
令和 2 年度（291 日営業） ※緊急事態宣言で 4/7～6/18 は臨時休館	64,310 人	221.00 人／日
令和 3 年度（362 日営業）	83,663 人	231.11 人／日

また、平日と土日祝日の「一日あたりの平均来館者数」を比較すると、令和元年度は「平日　約 353 人」、「土日祝日　約 1095 人」となった。

現ふるさと館では、曜日やゴールデンウィークなどの休暇時期によって、来館者数に大きな差があることが分かる。

表 5 平日と土日祝日の来館者数比較（令和元年度）

曜日	年間総来館者数	一日あたりの平均来館者数
平日（244 日営業）	86,213 人	353.33 人／日
土日祝日（122 日営業）	133,598 人	1095.07 人／日
計 366 日営業 ※うるう年の 2020 年 2 月 29 日分を含む	計 219,811 人	600.58 人／日

（2） 新ふるさと館の来館者数目標

新ふるさと館では、関係者全員が具体的な目的意識と将来ビジョンを共有し、事業を上向きに継続していくための目標値として、「年間来館者数 20 万人」を毎年の到達目標とし、新型コロナウイルス感染症拡大前の来館者数水準への回復を目指す。

そして新ふるさと館の開館から 5 年以内での「総来館者数 100 万人」到達を目標に、来館者数水準を維持・向上していくことを目指す。

鳥取県による「令和 3 年観光客入込動態調査結果」の観光消費額単価を参考に試算すると、来館者 1 人あたりの観光消費額は約 1 万円となる。この数値をもとに総来館者数 100 万人を達成した際の観光消費額を試算すると、約 100 億円もの観光消費額が見込めることとなる。

これは、ふるさと館再整備の目的の一つである「再整備を起点として、町内事業者の増加や地域の活気が生み出されていく持続可能な好循環づくり」に、大きく寄与するものと考えられる。

この目標値を達成する為、現ふるさと館の来館者数実績を参考にし、今後は入館時間指定システム導入による来館者数コントロールの実施なども視野に入れながら、引き続き新ふるさと館の集客計画と具体的な来館者数見込みの検討を行っていく。

3．運営費用の検討

新ふるさと館ついては、組織体制など運営に関する基本的な枠組みが確定しておらず、現時点での具体的な運営費算出は困難なため、現ふるさと館での運営費実績を参考にしながら、今後の事業計画の中で引き続き運営費の検討をしていくものとする。

今後、入館時間指定チケットの事前販売システム導入など、来館者数が事前に把握・想定できるような仕組みづくりも検討することで、施設内の収容人数コントロールや、将来的な収支予測の想定の他、施設スタッフの配置人数予測、飲食店のフードロス削減など、様々な面でのコスト軽減にも寄与する。

また、入館料の検討のほか、繁忙期と閑散期、平日と土日祝日など、需要と供給のバランスによりチケット金額を変動させる「ダイナミックプライシング（変動価格制）」や、年間パスポートなどの導入も検討することで、混雑緩和に加え、年間を通した売上増の可能性も探っていくこととする。

表 6 現ふるさと館の開館時間と入館料　※2023 年 1 月 1 日時点

開館時間	9：30～17：30　最終入館受付 17:00
休館日	年中無休
入館料	小学生未満　無料 小学生　300 円（200 円） 中学生・高校生　500 円（400 円） 大人　700 円（600 円） ※障がいのある方、その付添い 1 名　半額 ※パスポートまたは在留カードの提示　100 円引き ※（ ）内は団体 20 名以上の料金

第６章　今後の展開

今回の基本計画を元に、今後は本計画の実現に向けて、基本設計や展示設計などといった、より具体的な各種検討と事業の推進を行う。

また、本計画を価値あるものとするためには、様々な関係者が協力して各事業を推し進めていく仕組みづくりが必要となる。

１. 推進事業体の結成

次年度以降、本計画の推進にあたっては、多様な視点からの知見やスキルを集約し、多様な立場の人たちが連携していくことが必要不可欠である。

そのため、町と地域、民間事業者、専門知識を持った専門家といった、各立場の代表者が参画する「推進事業体」の結成を検討する。

図 9 推進事業体イメージ

2．今後のスケジュール

本計画は、展示施設の建築事業・展示事業以外にも、外構事業、現ふるさと館から新施設への移転事業、地域との連携事業など、多岐に渡る事業が必要となる。各事業において、それぞれ関係各所と連携・調整を丁寧に行いながら、令和９年（2027年）のオープンを目指して進めていく。

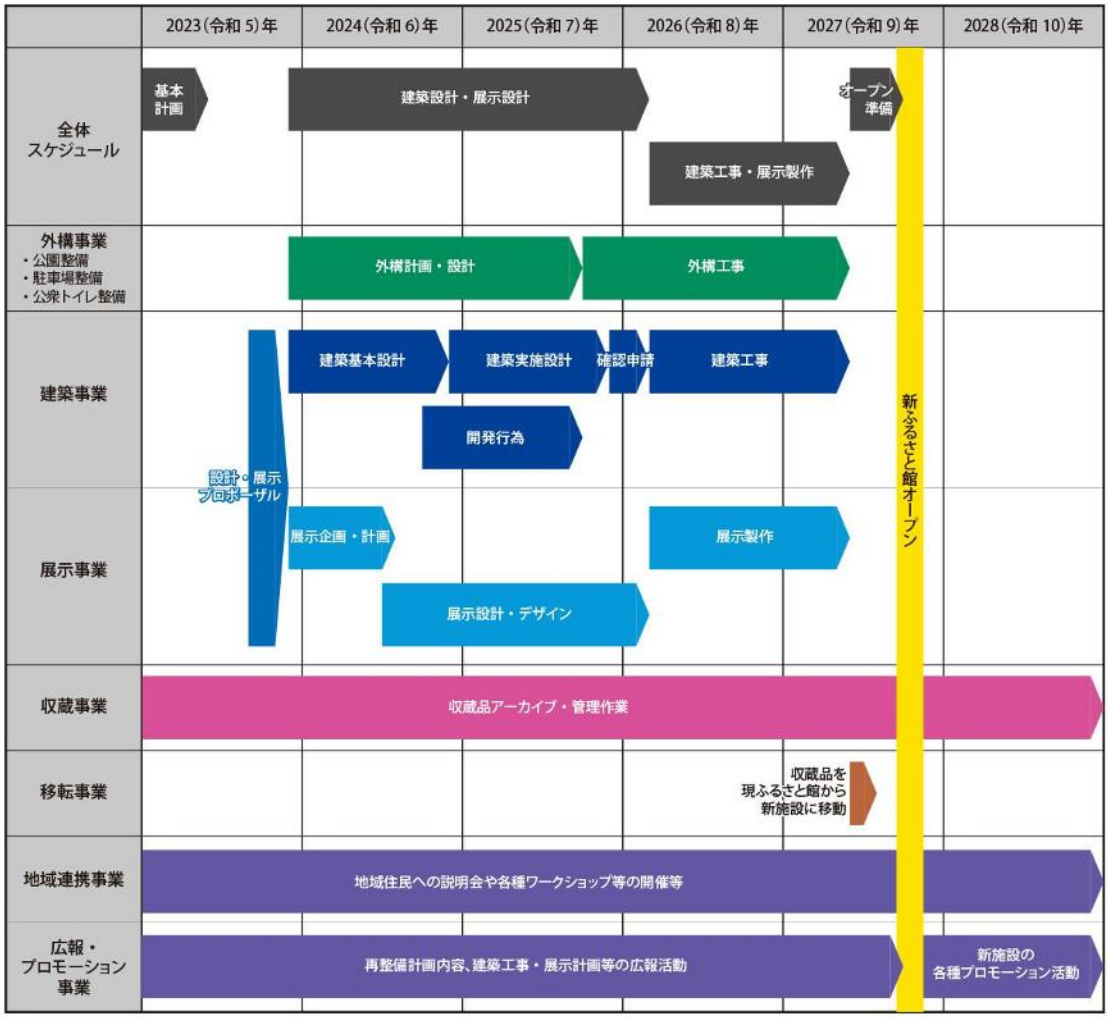



図 10 事業進行イメージ